

もも桑名では、以前より訪問している医療的ケアが必要なお子さんの学校までの通学支援を行っています。

介護タクシーの方と連携し、朝にご自宅へ訪問してお子さんを介護タクシーに乗せ、そこにももの看護師が同乗します。私たち看護師はお子さんを見守りながら、必要に応じて医療処置を行い、学校までの通学をサポートしています。学校に到着したら、学校の先生へ申し送りを行います。通学支援開始にあたっては、安全かつ安楽に通えるよう試走を行い、職員間で話し合いを重ねた上で、支援体制を整えました。

通学支援によって、お子さんは毎日学校に通うことができ、ご両親も安心してお仕事に取り組むことができます。訪問看護ステーションができることには限りがあるかもしれませんが、しかし、私たちができる小さな支援が、「学校に行きたい」というお子さんの思い、「学校に通わせたい」というご両親の願いを叶える一助となります。「子は宝」とは、よく言ったものです。地域の宝を、地域で支えていけたらと願っています。小さなことから、コツコツと!!



文責：筒井

お知らせ

三重県医療的ケア児・者相談支援センター そういん支部

今年の4月からそういん地区の医療的ケアを必要とされている方や、そのご家族の様々な不安や悩みに寄り添う相談窓口を、ナーシングホームもも桑名が担うことになりました。

【医療的ケア児・者相談支援センター】では、一人ひとりが輝き、つながり、共感し合えるそんな地域づくりをめざして、さまざまな機関や専門家が連携し、医療的ケア児・者の方をサポートしています。お気軽にお電話ください！

対象地区：桑名市・いなべ市・木曽岬町・東員町

受付時間：平日 9:00～17:00（土日、年末年始を除く）

TEL：080-1561-4632



【発行】 有限会社だいち
【編集】 ナーシングホームもも
【発行月】 もも便り発行委員会
 2025年10月（年3回）

★職員募集中★
 私たちと一緒に働きませんか？
 詳細はホームページを
 ご覧ください

ナーシングホームもも **検索**
<https://www.momo3.net>



【本社】
 〒511-0241 員弁郡
 東員町鳥取917-2
 TEL 0594-75-0302

【鳥取】
 〒511-0241 員弁郡
 東員町鳥取917-2
 TEL 0594-86-1110
 TEL 0594-86-1113

【いなべ】
 〒511-0428 いなべ市
 北勢町阿下喜3514
 TEL 0594-72-3530

【四日市】
 〒512-8054 四日市市
 朝明町441-1
 TEL 059-336-3330

【桑名】
 〒511-0901 桑名市
 筒尾1-13-1
 TEL 0594-33-0302



第25号 もも便り

ようやく朝晩が過ごしやすい季節になってきました。今年の夏は今までで一番暑い夏だったそうです。暑い夏を乗り切って涼しくなってくると、体調を崩しやすいものです。温かいお茶やコーヒーを飲みながら、もも便りを読んで、ほっとひと休みして、体調を整えましょう。

今回のテーマは「たからもの」です。人それぞれ、捉え方ががあると思います。お金？ 宝石？ 家族？ 健康？ 時間？ 私にとっての「たからもの」は、コーヒーを飲みながら愛犬を撫でている時間です。今回のもも便りが、自分にとっての「たからもの」を考えるきっかけになれば幸いです。

我が子はたからもの

「たからもの」がテーマと聞いて、NHKの【おかあさんといっしょ】という番組で流れていた「たからもの」という曲を思い出しました。その曲の歌詞には、「あなたはわたしのたからもの うまれてくれてありがとう」とあります。調べてみると、さだまさしさんの曲でした。この曲と同じく、今の私のたからものは3歳の我が子です。この子が生まれてくる前に、死産を経験しました。そのためか、この子が生きているだけで愛おしく感じます。我が子と過ごす様々な経験と時間と思いが、今もこの先も、たからものになっていくと思います。私がリハビリで関わらせていただいているNさんのお母様も、自分と同じような気持ちなのではないかなと、感じる時があります。



写真のNさんは、最近飼い始めた赤ちゃん亀をかわいがっています。脳性麻痺の持病があるNさんは、ご自身の姿勢や指先のコントロールが難しいのですが、Nさんはカメと遊びたいのです。どうしたらカメに手が届くか、どうしたらカメを持てるか、よく考えてNさんは動きます。カメとリハビリしていると、普段のNさんではやらないような、自力での姿勢変換をされました。どう動くか考える運動企画の練習にもなりました。そんな姿を見てNさんのお母様はとても嬉しそうでした。そして母の喜ぶ姿に、Nさんとても嬉しそうに笑っていました。2人ともキラキラと輝いていました。

リハビリの利用者様には、小児疾患をお持ちで大人になった方が何人かおられます。発達歴や今までの経験、どう過ごしてきたかお話を伺っている時には、生まれた時からどれだけ大切に大切に育てられてきたかという愛を感じます。壁にぶつかりながらこう乗り越えた、こんなことが楽しかった、この子はこれがお気に入りや…などなど。利用者様の成長や変化は、ご両親にとっての喜びです。

ご本人よりも先に、ご両親が喜んでくれることも多いです。そんな場面を見る度に、ご両親にとって宝物なのだなと感じます。ご両親も本人も楽しそうな様子は、支援する私にとって、とても励みになります。これからも親子の「たからもの」のような時間を増やしていけると嬉しいです。



あなたの『宝物』ななに？

鳥取

『宝物』という言葉はなぜか心がウキウキする言葉ですね。『あなたの宝物は何ですか？』と聞かれたら、誰でも何かあると思います。そこで今回、グループホーム鳥取の利用者様に、『あなたの宝物は何ですか？』と聞いてみましたのでご紹介します。

★A 様(83歳) 宝物は『心にある前向きな気持ち』。旦那が早くに亡くなったので、くよくよしない気持ちでいる。色んなことを乗り越えてきた。小言は言わないことにしている。そう自分に言い聞かせている。

★B 様(86歳) 宝物は『我が子』。何かにつけて何でもしてくれる。食べに行く、ドライブに行くなど、頼んだことを行動に移してくれ、お世話してくれる。見ていてくれるのがわかって、ももに来てからつくづくそう思う。

★C 様(87歳) 宝物は『健康と子ども』。昔から病気を患ってきたので、健康が大事と思った。家族であちこち旅行したのが思い出に残っている。あの頃が一番良かったな。

★D 様(93歳) 宝物は『自分の手』。好きな絵を描くことができる。ご飯も食べられる。何でもできるから。

★E 様(82歳) 宝物は『息子』。息子に世話してもらうから。男の子は優しい。ご飯の支度をしたり、洗濯したりする。

★F 様(あと3年で100歳) 宝物は『お金』。お金があれば何でも出来る。あとは『健康』も大事、長生きしたいから。今まで大きな病気をしたことがない。出来たら歯を治したいな。

★G 様(83歳) 宝物は…ず～っと黙って考えていました。子どもさんですか？旦那さんですか？と尋ねると涙一杯になりました。後日改めて宝物は健康ですか？と尋ねると『そうだね』と即答でした。

★H 様(91歳) 宝物は『自分』やね。自分がすべて無くさぬよう、記憶も、居場所も、それが大事。

★J 様(何歳かわからん) 宝物は『家族』に決まっとる！家族のために一生懸命働いた。自宅を離れて働きに行く時は、家を守ってくれと嫁さんに頼んだ。職員が“奥様のこと愛してますか？”と質問したら、「ば、ばかな。そ、そんなこと」と動揺されました。後日同様の質問をしたら「当然」と一言。

ほっこりするお話が沢山聞けました。お話をする時の皆さんの笑顔も印象的で、話が途切れない方もいらっしやいました。せっかくの機会なので職員にも聞いてみたら、『家族』『めだか』『柴犬』など様々でした。ちなみに私の宝物は、『25年以上財布に入れている、子どもからの手紙と家族』です。仕事ばかりでほったらかしだったのに“私達の為にお仕事有難う。大きくなったらご飯作ってあげる”と書いてあり、嬉しかったです。

今回、『宝物』についてお話を聞きながら、こころが温くなりました。生きてきた大事な時間を分けていただいたような気持ちにもなりました。そして思いました。宝物をたくさん持っている皆さんが住んでいるグループホームは…宝箱ということか!! そう思うと毎日の仕事もウキウキした気持ちになります。

これからも、キラキラ輝く宝箱であるよう、毎日の掃除はもちろんのこと、素敵な思い出を宝物として増やしていただけるよう、職員一同頑張っていきたいと思います。

文責：多湖・星野



今の私につながる大切な宝物



～祖父と交わした約束～

私が介護職を目指したきっかけは、亡くなった祖父との“最期の約束”です。

入院後、寝たきりになった祖父に「私が介護福祉士になって介護するから、長生きしてね。」と伝えると、祖父は笑顔で頷いてくれました。その約束を果たす前に祖父は他界してしまいましたが、どうしてもその想いを形にしたいと思い、この道を選びました。



今、現場で働く中で、利用者様に「会えてよかった」と声をかけていただいたり、私の名前を覚えてくださっていることに、日々励まされています。その温かい言葉や笑顔が、介護の仕事を続ける大きな支えであり、私の原動力になっています。

また、仕事の中で私が大切にしているのは、ご利用者様が作ってくださる作品です。作成中に「どうしようかな」と悩みながらも楽しんでいる様子や、完成後に「素敵だね」と笑顔を見せて下さる瞬間は、大切な時間だと感じてます。

これからも、ひとつひとつの出会いと時間を大切にしながら、心を込めて寄り添っていきたいと思っています。

文責：津田



～出会いがくれた今～

宝物？ 家族、命、思い出…色々思い浮かぶ中で、私の宝物は「出会い」だと思いました。

人との出会いがあり、今の自分があり、そして全ての縁につながっていると感じたからです。

私が福祉の道に興味を持つようになったのは、中学生の時に、学校行事の一環で支援学校の生徒さん達と交流したときです。初めてのことばかりで、どんな風に接すればいいのか戸惑いもありましたが、生徒さんがとても楽しそうにしている姿や笑顔に触れ、共に楽しむことができました。

たった1日の交流でしたが、この体験がきっかけで「人と人とのつながりの中で、誰かの力になれたらいいな」と思うようになりました。

その後、祖父の認知症や病気などに触れ、また、介護福祉士という資格があることを知り、福祉の仕事に進むことになりました。早いもので福祉・介護の仕事を始め30年程が経ちました。その間、たくさんの利用者様やそのご家族、職場の仲間と出会いがありました。日々仕事をしていく中で心が折れそうになったことや、涙したこと、仕事を辞めてしまいたいと思ったことも何度かありましたが、利用者様からの何気ない感謝の言葉や楽しそうな笑顔、仲間の励ましに何度も救われました。そんな時、人と人とのつながりの尊さを深く実感しました。

誰かの力になりたいという気持ちで進んだ道。私が誰かの力になれているかどうかはわかりませんが、少なくとも私は日々の出会いによって支えられ、成長させられています。

今でもふっと中学生の頃の体験を思い出すことがあります。あの出会いがなければ今の私はないと…。これからも一つひとつの出会いを大切にしながら、自分らしく介護の道を歩んでいきたいと思っています。

文責：木戸